

「第二期三重県ひきこもり支援推進計画」に基づく令和7年度事業の進捗状況

資料1

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
1 情報発信・普及啓発		
ひきこもりについての正しい理解を深めてもらうためのフォーラムを開催する。	<p>広く県民の皆さんを対象に、「ひきこもり支援講演会」を10月5日に開催した。また、新たな試みとして、講演会終了後に相談会を開催し、支援につながる機会の提供を行った。</p> <p>会場：三重県庁講堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町の取組紹介 発表者：明和町社会福祉協議会 山田奏 氏 「明和町のひきこもり支援～地域は資源のオアシス～」 ・講演 講師：白梅学園大学名誉教授／ソーシャルワーカー 長谷川俊雄 氏 「ひきこもりを生きる～自律に向けたつながり～」 ・講演会参加者：152名 ・相談会参加者：2名 	三重県ひきこもり地域支援センター 子ども・福祉部 地域福祉課
ひきこもり支援に係るリーフレットを作成し、三重県内の関係機関等に配置する。	県や市町が設置する相談窓口等を紹介するリーフレットを作成し、支援機関に配布するとともに、コンビニエンスストアやショッピングセンター等にも配架した。	子ども・福祉部 地域福祉課
三重県ひきこもり地域支援センターのリーフレットを三重県内の関係機関に配布する。	会議や研修の機会を通じ、三重県ひきこもり地域支援センターのリーフレットや相談案内などのチラシを三重県内の関係機関に配布した。	三重県ひきこもり地域支援センター
ひきこもり当事者やその家族、県民が必要な情報を得られるよう、SNSを活用したきめ細かな情報発信を行う。	「みえひきこもり安心サポートライン」により、県内で開催される講演会や家族教室、居場所等に関する情報を定期的に発信した。 登録者：507名 配信回数：41回	子ども・福祉部 地域福祉課
就職氷河期世代等のひきこもり当事者やその家族に対して、各種支援策の利用を促進するために、SNSを活用した効果的な情報発信を行う。	SNSを活用して、対象者に向けて支援策等の情報発信を実施。 Twitter投稿数：15本 SNS広告：2回	雇用経済部 雇用対策課
2 家族支援		
電話・来所・メールを通じて、ひきこもりに関する専門相談を行う。	専門相談延べ件数：516件 (内訳：来所 158件、電話 212件、メール 129件、訪問 17件)	三重県ひきこもり地域支援センター
専門相談での対応（助言支援）及び研修会や支援機関への技術指導援助の機会を通じ、ひきこもり相談支援マニュアルの周知・活用を促す。	専門相談時に助言・支援を行うとともに、関係機関などへの会議、研修の機会等を通じ、ひきこもり当事者の家族向けの勉強会（暴力的行動への理解）を2月に実施予定。	三重県ひきこもり地域支援センター

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
ひきこもり専門相談などの際に、情報提供や適宜、消費生活センター等と連携し支援を行う。	専門相談などを通じ、消費者トラブルに関する相談があった際は、消費生活センター等の情報提供と連携を行っている。	三重県ひきこもり地域支援センター
県内各所でひきこもり家族教室を開催する。また、市町から要望があった際は、市町単位での家族教室の開催を検討する。	県内3か所にて計6回ひきこもり家族教室を開催した。 参加延べ人数：64名 9月8日（月）：ひきこもりの理解（県四日市庁舎） 9月18日（木）：家族のこころを守るセルフケア（県伊勢庁舎） 10月2日（木）：今すぐ始めよう 親亡き後の準備と対策（県津庁舎） 10月24日（金）：ひきこもりに関する実態調査について・家族交流会（県津庁舎） 11月14日（金）：ひきこもりに関する実態調査について・家族交流会（県四日市庁舎） 12月12日（金）：ひきこもりに関する実態調査について・家族交流会（県伊勢庁舎）	三重県ひきこもり地域支援センター
各市町等と連携し、県内を巡回する家族交流会を開催することで、ひきこもり当事者の家族が支援につながる機会を増やすとともに、家族会を開催するノウハウの共有を図る。	三重県ひきこもり地域支援センターと連携し、県内3地域において家族同士が交流を行う「家族交流会」を開催した。開催にあたっては、市町のひきこもり支援担当者にも参加を呼びかけ、ノウハウの共有を行った。	子ども・福祉部 地域福祉課
当事者や家族が住んでいる地域とは異なる市町において実施する支援（家族会）を利用できる体制づくりを試行的に実施する。	ひきこもり地域支援センター事業等を実施している5市の業務委託先が開催する家族会を利用できる事業を試行的に実施した。 実施市町：伊勢市、松阪市、鳥羽市、いなべ市、伊賀市 利用者：家族会・当事者会42名	子ども・福祉部 地域福祉課
虹の会（ひきこもり当事者の家族の集まる場）の運営及び多様な手段を活用し、家族会のニーズを把握する。	虹の会を毎月第3金曜日に開催。家族会のニーズ把握に努める必要がある。	三重県ひきこもり地域支援センター
3 当事者支援		
電話・来所・メールによる相談を通じて、専門的で適切なアセスメントを行い、多職種連携チームによる支援を行うとともに、医療的支援ニーズが高い場合は医療機関への慎重かつ丁寧な橋渡しを行う。	多職種連携や医師相談などを活用し、受診の必要性や医療的支援ニーズの優先度等に関して精神保健医療に基づく見立てを行い、支援を実施している。	三重県ひきこもり地域支援センター
県立教育支援センターにおいて、高校段階で社会との関わりが希薄な状態にある子どもたちに学習や進路相談、体験活動等の機会を提供し、自己肯定感を高めることで、子どもたちが自らの進路を主体的に考えることができるように支援する。	県立教育支援センターの登録者は51名であり、そのうち実際に利用した生徒は27名であった。子どもたちの実情に応じて体験活動（調理体験・科学実験・ダンス等）を月に5回程度実施した。Instagramで体験活動の予定を周知することで、活動を目的に利用につながる生徒もいた。また、予定を立てていても、その日に県立教育支援センターに来ることができない生徒もいることから、夏祭りや文化祭などイベントが体験ができる週をつくり、多くの生徒が参加した。保護者に対する交流会を3回実施した。（全4回実施予定）	教育委員会 生徒指導課
適切なアセスメントを通じた見立てにより、多職種連携チームによる訪問支援に加え、市町をはじめとする関係（支援）機関と連携した訪問支援を実施する。	必要に応じ、市町などの関係機関との役割分担の上、訪問支援を実施している。 訪問支援件数：17件	三重県ひきこもり地域支援センター

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
精神科病院にアウトリーチチームを設置し、アウトリーチにより、在宅の精神障がい者の生活を支援する。	3つの障害保健福祉圏域（鈴鹿・亀山圏域、津圏域、伊賀圏域）において実施した。 令和7年11月までの対象者数：55名	医療保健部 健康推進課
社会的孤立状態にある方については、アウトリーチ等による積極的な情報把握により早期に支援につなぐことや支援につながった後の集中的な支援を行う。	三重県生活相談支援センターに相談支援員やアウトリーチ支援員を配置し、支援を必要とする方が早期に相談窓口につながるよう取り組むとともに、ひきこもり当事者やその家族に寄り添った伴走型支援を行った。 支援件数：499件（面談訪問等466件、同行支援33件）	子ども・福祉部 地域福祉課
・教育支援センターにスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、心理や福祉の専門的見地からの支援や相談を行うとともに、不登校支援アドバイザーの助言を得ながら、不登校児童生徒への訪問型支援に取り組む。	県内すべての教育支援センター（22か所）にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校児童生徒の支援を進めている。 不登校支援アドバイザーが教育支援センターを訪問し、不登校児童生徒・保護者への支援に対する助言を行った。 不登校児童生徒の状況に応じて、不登校支援アドバイザーや配置しているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが訪問型支援を実施した。 訪問型支援件数：120件	教育委員会 生徒指導課
ひきこもり当事者のニーズを把握し、交流会等の場づくりに向け、技術的支援を行う。	市町が養成するひきこもりサポーター養成講座において、ひきこもりの理解や対応などを伝え、ひきこもり当事者の交流の場づくりにつながる技術支援を行った。	三重県ひきこもり 地域支援センター
4 相談支援体制の充実		
ピアサポーター（ひきこもり当事者やその家族の経験者等）による寄り添い型の相談窓口を設置する。	ピアサポーターによる寄り添い型の相談窓口である「ひきこもりピアサポートセンターみえ」を令和7年6月に開設した。 相談件数：78件	子ども・福祉部 地域福祉課
支援や介入の必要性の判断が困難であり、より高い専門性が求められるケースについて、多職種連携チームに加え、市町等の関係（支援）機関と共にケースの事例検討を行い、適切な支援につなげる。	多職種連携チームによるケース会議を月1回開催している。市町等の関係（支援）機関と事例検討（2事例）を行った。	三重県ひきこもり 地域支援センター
生活困窮者からの相談に応じる自立相談支援機関を設置し、郡部の生活困窮者に対して広く相談支援を行う。	三重県生活相談支援センターに相談支援員やアウトリーチ支援員を配置し、生活困窮者からの相談に丁寧に応じるとともに、ひきこもり状態にある方やその家族に寄り添った伴走型支援を行うなど、包括的な支援を行った。 新規相談受付件数：210件	子ども・福祉部 地域福祉課
相談支援包括化推進員等養成研修の開催や、市町が包括的な相談支援体制を整備するため、専門家の派遣による個別支援に取り組む。	包括的な支援体制の中核を担う職員の養成のため、市町や市町社協職員を対象として、相談支援包括化推進員等養成研修を開催した。また、包括的な相談支援体制の整備をめざす市町に対して、専門家を派遣し個別支援を行った。 連続研修：3回（延べ参加者：89名） テーマ別研修：1回（延べ参加者：24名） 個別支援実施市町：2町	子ども・福祉部 地域福祉課

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
<p>・義務教育修了後進路が決まらなかったり、進学しても中退したり、就職しても退職するなどにより、ひきこもり状態が長期化することのないよう、潜在的な当事者を早期に把握し、適切な支援機関につなげるための取組を進める。</p>	<p>各市町教育委員会や教育支援センターとスクールソーシャルワーカーが連携し、社会との関わりが希薄な状態となっている児童生徒の情報を共有し、今後の支援について検討した。令和6年度に進路未決定のまま県立高等学校を中途退学した方へのアンケートを実施。アンケート回答者のうち2人が関係機関との連携を希望し、相談対応等を行った。 アンケート送付数：101名（全日制62名、定時制38名、通信制1名） アンケート回答数：10名（全日制10名） また、進路未定のまま県立高等学校を中途退学した方に対して、中途退学した翌年度の夏頃に、在籍していた高等学校から、就労や編入学の情報、医療や福祉の相談機関等を示した資料を送付した。</p>	<p>教育委員会 生徒指導課</p>
<p>・地域包括支援センターや在宅介護支援センターが高齢者への支援を行う中で、ひきこもり当事者を把握した際に、適切な支援機関につなげられるよう、ひきこもり相談窓口を周知するなど、地域包括支援センター等への働きかけを進める。</p>	<p>地域包括支援センター職員を対象として、三重県におけるひきこもり支援の取組について説明する研修会を開催予定。相談支援機関として、本人及びその家族の「尊厳」を守り、寄り添いながら丁寧な相談支援を、関係機関と連携して適切に行えるよう支援対応力の向上に資する内容の研修を予定している。</p>	<p>医療保健部 長寿介護課</p>
<p>「ひきこもり相談支援マニュアル 第2版」等を活用し、研修会や市町等の関係（支援）機関への技術支援等を通じ、適切なアセスメントなどができるよう取組を行う。</p>	<p>市町や関係機関主催の会議、研修会を通じて、適切なアセスメントができるよう助言を行った。</p>	<p>三重県ひきこもり 地域支援センター</p>
<p>子どもたちの心の問題の解決に向け、幼児から高校生までの子ども、保護者、教職員を対象に、臨床心理相談専門員（臨床心理士）を中心とした専門的な教育相談を実施する。</p>	<p>学校だけでは解決が困難なケース等に対して、高度な専門性を備えた臨床心理相談専門員を中心に専門的な教育相談を行っている。 教育相談件数：5,726件</p>	<p>教育委員会 研修企画・支援課</p>
<p>5 社会参加・活躍支援</p>		
<p>ひきこもり当事者が社会につながるきっかけをつくるため、既存のオンライン会議アプリを利用した電子居場所を開設する。</p>	<p>業務委託先の5団体が、月1回以上の電子居場所を開催した。各団体では、「顔出しなし、発言なし」の見るだけ参加を可能とする、開催時間帯を夜（21時）に設定する等の配慮や工夫をしながら、参加者が安心して参加できる居場所を提供している。 参加者：315名</p>	<p>子ども・福祉部 地域福祉課</p>
<p>当事者や家族が住んでいる地域とは異なる市町において実施する支援（居場所、当事者会）を利用できる体制づくりを試行的に実施する。</p>	<p>ひきこもり地域支援センター事業等を実施している4市の業務委託先が開催する居場所を利用できる事業を試行的に実施した。 実施市町：伊勢市、鳥羽市、いなべ市、伊賀市 利用者：居場所250名</p>	<p>子ども・福祉部 地域福祉課</p>
<p>県内のひきこもり当事者のための居場所の運営や活動状況について実態把握を行い、今後の居場所づくりの取組を検討するための基礎資料とするとともに、既に取り組まれている居場所についての情報発信の強化を図る。</p>	<p>「ひきこもりの居場所に関する実態把握調査事業」において、令和7年6月にアンケート調査、令和7年7月から8月にかけて個別ヒアリングをそれぞれ実施し、県内のひきこもりの居場所の運営や活動状況について実態把握を行った。 アンケート回答数：38件 ヒアリング実施数：4団体</p>	<p>子ども・福祉部 地域福祉課</p>

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
<p>子どもの居場所が「持続可能な取組」となるよう、人材育成やマッチング、運営補助金等のさまざまな手法で支援を実施する。</p>	<p>①子どもの居場所づくり応援アドバイザーの派遣や勉強会の開催、インターンシップによる人材育成を実施した。 アドバイザー派遣利用件数：3件、インターンシップ利用件数：4件 勉強会：5回開催 参加者数：延べ76名 ②子どもの居場所 ニーズ・シーズマッチング事業の実施 ニーズの登録：78件、シーズの登録：33件、マッチング成立：262件 ③子ども食堂の開催や学習支援・体験活動を行うための運営補助金や子ども食堂における朝ごはん提供を行うための補助金の交付を行った。 三重県子ども食堂等支援事業補助金：50件 三重県学習支援・体験活動等支援事業補助金：58件 三重県子ども朝ごはん食堂等支援事業補助金：9件</p>	<p>子ども・福祉部 少子化対策課</p>
<p>・不登校の状況にある子どもたちが、社会的自立に向けたきっかけを得られるよう、オンライン上で安全に交流できる居場所づくりに取り組むとともに、学校とフリースクール等の民間施設との連携を深め、民間施設が実施する体験学習等への支援を行う。</p>	<p>Zoomやメタバースを活用して三重県総合博物館やFM三重などの施設見学、講師による己書教室や大学生スタッフによるエレクトーンコンサートなど、子どもたちが興味関心のあるテーマについて、チャットや音声で対話する取組を実施した。 参加者：延べ464名 実施回数：50回</p> <p>不登校児童生徒を支援しているフリースクール等が実施する体験活動を22件支援した。</p>	<p>教育委員会 生徒指導課</p>
<p>（重点）不登校の子どもたちを学びにつなげるため、フリースクールに通う私立学校の児童生徒等のうち、経済的理由により援助が必要な家庭の利用料の一部を助成する。</p>	<p>対象フリースクールや私立学校を通じた事業の周知を実施したが、申請件数は0件であった。引き続き、私立学校等を通じた周知に努める必要がある。</p>	<p>環境生活部 私学課</p>
<p>・不登校児童生徒の学びの機会確保のため、フリースクールを利用する児童生徒等の保護者への経済的な支援を行う。</p>	<p>フリースクールを利用している不登校児童生徒等がいる世帯のうち、経済的な事情がある世帯（20世帯25名）に利用料の一部を補助した。</p>	<p>教育委員会 生徒指導課</p>
<p>市町職員や市町の委託等により運営する相談支援事業所等の職員に対し、各種研修の機会を通じて、ひきこもり当事者を含め発達障がいや精神障がいのある人に対し、それぞれの事情に応じた支援につながるよう助言等を行う。</p>	<p>市町職員や市町の委託等により運営する相談支援事業所等の職員に対し、各種研修の機会を通じて、ひきこもり当事者を含め発達障がいや精神障がいのある人に対し、それぞれの事情に応じた支援につながるよう助言等を行っている。</p>	<p>子ども・福祉部 障がい福祉課</p>
<p>生きづらさや働きづらさを感じている若者等の社会的自立を支援するため、農業の多様な作業内容を生かした農業就労体験に取り組む。</p>	<p>農福連携「福」の広がり創出促進事業において、伊勢市内の受入農業者（5件…青ネギ1件、サツマイモ1件、スナップエンドウ1件、ブロッコリー1件、露地野菜1件）と若者（5名）のマッチングを行い、農業就労体験を実施するとともに、受入農業者のリスト化を行った。農業就労体験をきっかけとして、5名の若者のうち2名が就職決定（農業関連1名、一般企業1名）となった。</p>	<p>農林水産部 担い手支援課</p>
<p>三重県内の関係機関を構成員として、県内の中高年世代の活躍支援をとりまとめ、進捗管理等を統括する「みえ中高年世代活躍応援プロジェクト協議会」において、継続的な取組を推進する。</p>	<p>みえ中高年世代活躍応援プロジェクト協議会の開催（書面開催） 第1回：6月23日（月）開催、第2回：1月開催予定</p>	<p>雇用経済部 雇用対策課</p>

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
<p>「おしごと広場みえ」内の就職氷河期世代等相談窓口「マイチャレ三重」において、相談から就職まで切れ目ない支援を行う。</p>	<p>「マイチャレ三重」において、各種相談やキャリアカウンセリング、就労体験等の受入先となる県内事業所の開拓等を行うとともに、雇用・福祉・医療等の支援機関と連携しながら、就職や社会参加に向けて切れ目ない支援を提供している。</p> <p>マイチャレ三重相談件数：449件 開拓事業所数：1事業所 就職者数：13名 合同企業説明会： (津)令和7年7月19日(土) 参加者20名</p>	<p>雇用経済部 雇用対策課</p>
<p>若年無業者の職業的自立を図るため、各地域若者サポートステーション（4か所）と連携し、就労体験や各種セミナーの開催などに取り組む。</p>	<p>(1) 就労前スキルアップ訓練 就労など自立に課題を抱える若年無業者に対して、地域の企業等で就業するために必要な知識や技術を取得させるために、パソコン講座や就労に向けたスキルアップのための訓練等を行った。 参加者延人数：142名</p> <p>(2) 就労体験等 NPO法人や事業所におけるジョブトレーニングを体験できる機会を提供する他、社会参加の一環として、イベント等への社会体験（ボランティア体験）を実施した。 参加者延人数：240名</p> <p>(3) 常設型施設体験就労 運営団体自らが運営管理する施設を利用して、基本的な社会生活やスキルを身につける就労体験（喫茶、製菓及び農業）を実施した。 参加者延人数：28名</p> <p>(4) 就職氷河期世代等向け就労支援事業 就職氷河期世代等向けに、職業スキル向上を図るとともに、就労に向けて成功体験を重ねていくための就労体験や社会体験等を実施した。 参加者延人数：91名</p>	<p>雇用経済部 雇用対策課</p>
<p>若年求職者、大学生等の安定した就労や職場定着を図るため、三重労働局等と連携し「おしごと広場みえ」を拠点として、職業相談や各種セミナーの開催に取り組むとともに、県内企業の人材確保ニーズと若者の就労ニーズのマッチングを図るなどワンストップで総合的な就労支援を実施する。</p>	<p>「おしごと広場みえ」を拠点に、若年者向けの雇用情報の提供、職業相談、キャリアカウンセリング、セミナー、企業情報収集等、総合的な就職支援サービスを提供した。</p> <p>・若者と企業との交流イベントの開催 ・県内外の大学訪問による県内の就職情報の発信及び情報収集 他</p>	<p>雇用経済部 雇用対策課</p>
<p>令和7年4月に開校する県立みえ四葉ヶ咲中学校に入学する生徒が、個々の状況に応じていきいきと学習できるよう学習環境の整備や学校運営を行う。</p>	<p>令和7年4月に県立みえ四葉ヶ咲中学校が開校し、学齢期を過ぎた方が入学できる夜間中学コースに40名、学齢期の不登校生徒等が入学できる学びの多様化学校コースに30名の生徒が入学した。</p> <p>個々の学習状況に応じた個別学習や生徒同士がともに学ぶ協働学習、生徒のキャリア形成につながるような体験活動等を実施するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる生徒支援を行い、生徒一人一人がいきいきと学習できる環境を整備した。</p> <p>また夜間中学コースでは、ひきこもり経験者等が学校に通いたいという意欲を持った機会に入学できるよう、随時受け入れを行っている。（令和7年11月時点夜間中学コース生徒43名）</p> <p>次年度以降も、個々の状況に応じていきいきと学習できるよう学習環境の整備や学校運営を行う必要がある。</p>	<p>教育委員会 小中学校教育課</p>

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
6 支援者支援		
多様な分野でひきこもり支援に携わっている支援者を対象に精神保健福祉の観点から支援力の向上を図る「ひきこもり支援者スキルアップ研修」を開催する。	「ひきこもり支援者スキルアップ研修会」を開催し、取組報告のほか、参加者同士による意見交換を行った。第2回は3月に開催予定。 【第1回】1月26日 会場：県庁舎 参加者：54名 内容：三重県精神障がい者アウトリーチ体制構築事業におけるひきこもり支援、ひきこもり支援における精神科医療と地域支援機関との協働事例、ひきこもり支援における関係機関の連携促進	三重県ひきこもり地域支援センター
市町をはじめとした関係機関を対象に、情報共有、事例検討、顔の見える関係づくりの機会となる「ひきこもり支援ネットワーク会議」を開催する。	「三重県ひきこもり支援ネットワーク会議」を開催し、取組報告のほか、参加者同士による意見交換を行った。 【第1回】8月29日 会場：県庁舎 参加者：45名 内容：家族支援における取組の効果と課題、ひきこもり支援ハンドブック 【第2回】1月15日 会場：県庁舎 参加者：37名 内容：庁内外との連携構築、ひきこもりピアサポートセンターみえの取組、当事者・家族に情報を効果的に届ける工夫	三重県ひきこもり地域支援センター 子ども・福祉部 地域福祉課
・高齢者の支援介入時に、その世帯に包括的な支援が必要な対象者（8050問題、ヤングケアラー・ひきこもり・生活困窮等）の存在に気づいた際には、アセスメントし、適切な支援機関と連携して対応するスキルを養う研修会を実施する。	地域包括支援センター職員を対象として、三重県におけるひきこもり支援の取組について説明する研修会を開催予定。相談支援機関として、本人及びその家族の「尊厳」を守り、寄り添いながら丁寧な相談支援を、関係機関と連携して適切に行えるよう支援対応力の向上に資する内容の研修を予定している。	医療保健部 長寿介護課
相談支援包括化推進員等養成研修を開催します。	包括的な支援体制の中核を担う職員の養成のため、市町や市町社協職員を対象として、相談支援包括化推進員等養成研修を開催した。 連続研修：3回（延べ参加者：89名） テーマ別研修：1回（延べ参加者：24名）	子ども・福祉部 地域福祉課
・不登校児童生徒やその保護者への適切な支援を行うため、教育支援センターの指導員を対象に、事例検討等を中心とした専門的な資質向上を図る研修を実施するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを対象に、実践力向上のための研修を実施する。	教育支援センター指導員育成研修の実施（年間4回） 1回目 5月15日「教育支援センター指導員の基礎」・・・活用度64% 2回目 7月29日「事例検討会①」・・・活用度89% 3回目 10月14日「グループでの事例検討」・・・活用度93% 4回目 1月29日実施予定「事例検討会②」 スクールカウンセラー研修会を年3回実施。 スクールソーシャルワーカー研修会を月1回程度実施。	教育委員会 研修企画・支援課 生徒指導課
多職種連携チームによる精神保健のアセスメント、見立てを行います。また、必要に応じ、市町等の支援機関と共に多職種連携チームによるケア会議を行い、助言や同行支援等を行います。	多職種連携チームによるケース会議を月1回開催している。市町等の関係（支援）機関と事例検討（2事例）を行った。	三重県ひきこもり地域支援センター

取組内容	進捗状況（一部の会議開催実績を除き、12月末時点）	担当部局・課
生活困窮者からの相談に応じる身近な窓口として一時的な相談支援等を行っている町と連携して、支援を行う。	三重県生活相談支援センターに相談支援員やアウトリーチ支援員を配置し、支援を必要とする方が早期に相談窓口につながるよう、生活困窮者の一時的な相談支援等を行っている町と連携し支援を行った。 支援件数：499件（面談訪問等466件、同行支援33件）	子ども・福祉部 地域福祉課
7 多様な担い手の育成・確保		
各市町で養成、登録されたひきこもりサポーター等を対象にした研修会を開催し、スキルアップに必要な知識の習得や、それぞれの市町における取組事例の情報共有やサポーター同士の交流を通じ、ひきこもりサポーターの地域における継続的な活動につなげる。	伊勢市社会福祉協議会との連携により、県内4市が養成した「ひきこもりサポーター」を対象としたスキルアップ研修を2月4日に開催し、ひきこもり経験者による講演のほか、参加者同士による交流会を行った。 会場：伊勢市社会福祉協議会福祉センター 参加者：48名 内容：第1部 講師 ひきこもり経験者／自助会「さなぎるど」代表 中谷 信哉 氏 「当事者目線に基づく『サポーターとの楽な距離感』」 第2部 交流会（活動を振り返って、やりがいを感じる事等）	子ども・福祉部 地域福祉課
ピアサポーターによる寄り添い型の相談支援を行うとともに、ひきこもりピアサポーターを養成する。	「ひきこもりピアサポートセンターみえ」の受託者と、ピアサポーターの養成について協議している。	子ども・福祉部 地域福祉課